

## MV-22 オスプレイ配備に対し 沖縄は島ぐるみ闘争に入る

時：2012年7月11日18時30分

所：東京都文京区民センター

栄野川安邦

【1】、「空飛ぶ恥（マーク・トンプソン）」「空飛ぶ脅威」「空飛ぶ棺桶」「未亡人製造機」等々の異名を取る「垂直離着陸輸送機・V-22 オスプレイ」（海兵隊仕様はMV-22で、空軍仕様はCV-22）である。

\* 2011、6、6、那覇防衛局から公文「地元へのお知らせ」でオスプレイ配備を伝える。「(CH-46と比較し)MV-22はより安全で、一般的により静かで、相当に能力が高い。」

\* オスプレイの能力の欠陥—エンジンが止まった時のオートローテーションが不可能。

【2】2003、11、16、ドナルド・ラムズフェルド国防長官が、普天間基地をヘリに同乗して空中から見る「これは事故が起こらないのが不思議だ」といって、驚いた。この後、稲嶺恵一知事に会っている。

\* 2004、8、13、普天間基地に隣接する沖縄国際大学に、最大型のヘリ・CH53Dが墜落炎上した。幸い夏休みで、学生には一人も犠牲者はいない。乗組員の3人の米兵のうち一人は病院で死んだといわれている。

\* このヘリ墜落炎上事件に対する日本と米軍の対応について。日米安保条約（地位協定）対日本国憲法（第29条 財産権は、これを侵してはならない）。市消防署は消防法第33条の実施を要求。県警は被疑者不詳のまま「航空機の危険を生じさせる行為の処罰に関する法律」違反の容疑で現場検証の令状を裁判所から取っている。すべて米軍が拒否。

\* すべて日米安保条約優先、日本の憲法と法律は無視される。日本の憲法は第2憲法。

【3】2012、6、30、森本敏防衛相来県し、宜野湾市に佐喜真淳市長を訪ね、面談。森本「・・・米国の航空輸送支援、人道支援、災害救助支援の能力を向上する計画の一環だ」佐喜真「オスプレイ配備に断固反対だ。どこでもいいから（基地を）移設してほしい」

\* 旧石川市宮森小学校米軍ジェット機墜落炎上事件（1959年6月30日）から53年目のこの日、「石川・宮森630会」が同小で、慰霊祭を開いた。

\* 翌7月1日、森本防衛相は県庁で仲井真知事と予定時間を早めて面談。

森本「普天間（移設）問題は、日米同盟を深化させ、南西方面全体の安全保障環境の中でどのように取り組めばよいか、という観点から取り組みたい・・・」

知事は面談後、記者団に「事故などが起きた場合は（県内米軍の）全基地即時閉鎖という動きにいかざるを得なくなる」また、日米地位協定で米軍の運用に日本の法律が適用されない問題点を指摘し「（オスプレイが）人口密集地で治外法権的な運用が可能であることを地域住民や行政を預かる者が『わかりました』というはずがない」▶（記者団から）配備をめぐる県民大会の県による主催を求められていることについて「検討させてください」

【4】仲井真知事が貰ってきた10年間で3千億円の振興策。米軍基地からの収入は、県全体収入の5%強。「アメとムチ」「ズー・テオリー」「援助を受けることは支配されること（アフリカ）」

\*すでにオスプレイを乗せた輸送船は米国を出発した。県議会が主導して8月5日島ぐるみ抗議大会に向けて動いている。素手の住民平和運動が、武器を動かす戦争勢力に勝つか。沖縄は今、歴史の岐路に立っている。（えのかわやすくに・普天間基地爆音訴訟団幹事）